

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 令和6年度 総会

日時：令和6年3月16日（土） 15：20 - 16：10

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3 広島県民文化センター5階）

式次第：

開会

挨拶 支部長

議事

1. 令和5年度支部活動・会計の報告

1.1 令和5年度活動報告資料 1-1

1.2 令和5年度会計報告.....資料 1-2

● 監査報告書.....資料 1-2-1

2. 令和6年度支部事業計画について

2.1 令和6年度支部役員（案）資料 2-1

2.2 令和6年度活動計画（案）資料 2-2

● 「SCM&サービス工学」研究部会.....資料 2-2-1

● 「OR と数学」研究部会.....資料 2-2-2

● 「プロジェクトマネジメントと確率モデル」研究部会…資料 2-2-3

2.3 令和6年度予算（案）資料 2-3

3. その他

閉会

中国・四国支部 令和5年度活動報告（令和6年2月29日まで）

総会（1回）

第1回 日時：令和5年3月25日（土）15:20 - 16:10

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 501,502 講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3 広島県民文化センター5階）

議題：（1）令和4年度支部活動および決算の報告

（2）令和5年度支部役員の選出

（3）令和5年度活動計画および予算案について

（4）その他

運営委員会（2回）

第1回 日時：令和5年3月25日（土）14:10 - 15:10

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 501,502 講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3 広島県民文化センター5階）

議題：（1）令和4年度支部活動および決算の報告

（2）令和5年度支部役員の選出

（3）令和5年度活動計画および予算案について

（4）その他

第2回 日時：令和5年12月23日（土）15:00 - 16:00

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3 広島県民文化センター5階）

議題：（1）令和5年度支部活動・会計報告

（2）令和6年度支部事業計画について

（3）令和6年度第1回支部運営委員会および支部総会の日程検討

（4）その他

支部懇親会（2回）

第1回 日時：令和5年3月25日（土）18:00 - 20:00

会場：わび蔵（広島県広島市中区袋町2-28 サカタビル1F）

参加人数：14名

第2回 日時：令和5年12月23日（土）18:00 - 20:00

会場：新創作 帰路（kiro）（広島県広島市中区本通 1-1 サンシャイン4ビルB 1 F）

参加人数：12名

令和5年度支部定例シンポジウム

日時：令和5年10月28日（土）13:00 - 16:30

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

実行委員長：伊藤弘道（鳥取大学）

プログラム

13:00-13:10

開会の辞

13:10-14:10

講演者（所属）：

井上 真二 氏（関西大学 総合情報学部）

題目：

E/E/PE 安全関連系の最適ブルーフェスト実施間隔

概要：

電子・電子・プログラマブル電子機器（E/E/PE）安全関連系の運用時の保全活動として、ブルーフェストがある。ブルーフェストは、頻繁に実施される自己診断機能では検出できないフォールト（DU フォールト）の検知および修復に主軸をおく保全活動として知られている。ブルーフェストを実施すれば所定の安全性能を満たした稼働が大いに期待されるが、保全費用や全体システムの可用性を考えると頻度高く実施することは非現実的である。本研究では、安全関連系の危害発生論理を意識しながら、保全コストと危害リスクとのトレードオフ関係に着目し、信頼性数理における保全性理論を活用しつつ、経済的視点からブルーフェスト実施間隔を決定するための最適方策について議論する。

14:15-15:15

講演者（所属）：

中村 隆博 氏（鳥取大学大学院工学研究科 博士後期課程）

題目：

金融サービス提供会社の非営利活動法人に対する営業支援方策

～金融機関の法人顧客とのコンタクトデータに基づくシミュレーションと
営業方策のモデル解析～

概要：

法人を顧客とする金融機関の営業担当者は、顧客の取り巻く環境を考慮しつつ、顧客の業務活動継続のために財務基盤強化にむけた高度なサービス提供が期待されている。具体的には、証券金融ビジネスの提案が有効と思われるターゲット法人を選定しつつ、法人顧客とのコンタクトを継続するために適時適格な情報提供が期待されている。今回は、証券会社の非営利活動法人に対するコンタクト状況を鑑み、法人営業担当者の業務スキル格差を本社による営業支援方策でサポートしながらターゲット法人を選択し、法人顧客向け運用提案例をあげて証券金融ビジネス提案につなげる効果的な営業シミュレーションを紹介する。また、営業効率を考慮したモデルについても議論する。

15:20-16:20

講演者（所属）：

真塩 健二 氏（三菱重工業株式会社）

題目：ヒューマンシステムパフォーマンス測定

～原子炉制御室設計改善への活用～

概要：

原子力発電所中央制御室における運転員のプラント監視操作タスクの遂行（パフォーマンス）を客観的に評価するため、運転訓練シミュレータによる運転員訓練シナリオ遂行の中で得られる運転員行動に係る種々のデータを取得し、評価者が実施するタスクの評価を計算機で自動的に行えるよう運転員行動をパターン化し、行動指標となる運転手順書のステップと比較することで、運転員パフォーマンスを自動的に評価するシステムを紹介する。

16:20-16:30

閉会の辞

支部講演会

■ 第 1 回講演会

日時：令和 5 年 3 月 2 5 日（土） 16:20-17:30

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 501,502 講義室

(〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階)

講師：海生 直人 氏（広島修道大学 経済科学部 経済情報学科 教授）

題目：一般化された発注政策に関する一考察

概要：

本稿では発注されたスペアが確率リードタイム経過後納入されたとき動作ユニットがなお動作中であるならばスペアは在庫され、その後動作ユニットがある前もって定められた時間を経過するまでに故障すればその故障時点でスペアと取換えられるし、その時間を故障なしに経過すれば経過時点でスペアと交換される一般化された発注政策を議論する。評価関数として定常状態における単位時間当りの期待費用を適用し、その期待費用を最小にする最適発注政策を議論する。納入されたスペアは動作ユニットが故障するまで在庫されるという政策かスペアは納入されるとすぐに動作を引継ぐという政策かのどちらか一方の政策がある条件の下では決定される。

■ 第2回講演会

日時：令和5年10月6日（金）15：00～16：00

場所：広島大学東図書館セミナー室 D（Zoom によるオンラインとのハイブリッド開催）

講師名：永原 正章 氏（広島大学大学院先進理工系科学研究科情報科学プログラム・教授）

講演題目：スパースモデリングとその最適制御への拡張

概要：スパースモデリング（または圧縮センシング）は、できるだけ少ない特徴量でデータを説明したり、少ないデータからスパース性を仮定して良好な信号復元を行うための手法を提供する。本講演では、グループテストやカーブフィッティングの例題を用いてスパースモデリングの基礎について説明したのち、その無限次元版である最適制御への拡張を説明する。特に L0 最適制御と L1 最適制御の等価性や L0 最適制御の必要条件について詳しく解説する。また物流システムやマルチエージェントシステム、ビルの空調システムへの実応用についても最新の研究成果を報告する。

■ 第3回講演会

日時：令和5年11月1日（水）16:00 から 17:00

場所：Zoom によるオンライン開催

講師：Won Young Yun 氏（Pusan National University, Korea）

題目：A Positioning Problem in Lamp Systems Considering System Reliability

要旨：In this talk, I introduce optimal positioning problems in two-dimensional lamp systems considering the system reliability. Suppose n lamps are used to cover a service area, where each lamp can cover a circle area with a radius r . The lamp can be failed

with some probability and the system is working when working lamps cover the whole service area without dark area. The system reliability is the probability that the whole area is covered by working lamps. The lamp positioning problem is to determine the positions of lamps in the service area and the system reliability is used as an optimization criterion. Firstly, I explain how to calculate the system reliability in two dimensional lamp systems. Secondly, heuristic methods are proposed to determine the lamp positions and the performance of the heuristic methods is investigated by numerical examples. Finally, some promising research topics for future studies are discussed.

■ 第4回講演会

日時：令和5年11月4日（土）14：00～15：00

開催方法：Zoom によるオンライン開催

講師名：坂下 克之 氏（大成建設株式会社 技術センター 社会基盤技術研究部 材工研究室 構造解析チーム 主任研究員）

講演題目：構造物の損傷確率評価における subset 法の適用事例とその評価精度に関する研究
概要：

構造物の損傷確率評価において、損傷確率が小さい場合、破壊領域から離れた部分も含むパラメータの全空間で一様に標本を発生させて解析・照査を実施する通常のモンテカルロシミュレーションでは、精度確保のために多くの標本が必要となり効率が悪くなる。そこで計算負荷を低減するための手法として、徐々に領域を破壊側に狭めながら、比較的少数の標本によるモンテカルロシミュレーションを繰り返して損傷確率を求める subset 法が挙げられる。ここでは、構造物の損傷確率評価における subset 法の適用事例と、subset 法の標本数に依存した評価精度を数学的に導出した結果について報告する。

■ 第5回講演会

開催日：令和5年11月17日（金）15:00-16:15

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

講師：田村 慶信 氏（山口大学大学院 創成科学研究科 教授）

題目：オープンソースソフトウェア信頼性評価に対する確率モデルと深層学習アプローチによる比較と考察

概要：

OSSRA 2021 の報告によると、調査対象となった 1,500 以上のコードベースのうち 84%にオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれており、オープンソース脆弱性

の蔓延は悪化しつつあると言われている。本講演では、これまでの研究成果として、確率モデルに基づく OSS 信頼性評価法と、深層学習に基づく OSS 信頼性評価法について紹介し、それぞれのアプローチについて比較および考察する。

■第6回講演会

日時：令和5年12月23日（土） 16:15-17:30

会場：県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 講義室

（〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5階）

主催（共催）：

- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
- ・日本経営システム学会 中国四国支部

講師：西 竜志 氏（岡山大学学術研究院 環境生命自然科学研究科 教授）

講演題目：機械学習を活用したデータ駆動最適化技法とその応用

概要：DXの進展により、現場から収集されるデータの活用や機械学習を利用した新しい最適化技法が注目されている。本講演では実績データを利用した最適化モデルの同定や機械学習を用いたデータ駆動最適化技法による生産計画・スケジューリング手法とそれらの応用例について述べる。

「プロジェクトマネジメントと確率モデル」研究部会

（主査：伊藤弘道（鳥取大学），幹事：小柳淳二（鳥取大学），南野友香（鳥取大学），山田茂（鳥取大学名誉教授））

■第1回講演会

日時：令和5年11月17日（金）15:30--17:00

会場：対面開催，鳥取大学工学部 E 棟 4415 室（資料解析室）

講師：中村 隆博 氏（鳥取大学大学院博士後期課程（社会人コース））

題目：非営利活動法人への営業方策検討で学び直しを実施した背景と今後の方針について

概要：

COVID-19 をきっかけに、社会の課題解決に向けて工学的なアプローチをする社会開発システム工学の学び直しを思い立った。現在、金融機関で法人営業支援業務に携わる中で、効果的・効率的な営業支援方策を探索中であった。金融機関の営業実務、法人CRMのシステム構築業務や商品開発業務、内部統制業務、非営利活動法人営業支援業務経験を通して、CRM的な法人アプローチで情報配信するスキルが学べた。今回、社会人の学び直しとして工学研究科で営業方策の確

率モデルを考える機会をいただいた。本講演では法人アプローチのCRM的な考え方の紹介と非営利活動法人への営業方策を今後どのように活用するかを紹介する。

■第2回講演会

日時：令和5年12月2日（金）15:30--17:00

会場：対面開催，鳥取大学工学部 J 棟27講義室

講師：伊藤 秀臣 氏（東洋熱工業（株））

題目：熱源システムの最適制御の取り組み

概要：

今年、省エネ大賞を受賞したビルや工場などの空調のための熱源システムを省エネに自動運転させる熱源トータル最適制御システム E-SCAT とビル管理に重要な BEMS データの活用の取り組みなどを紹介する。

「SCM&サービス工学」研究部会

（主査：谷崎隆士（近畿大学），幹事：宇野剛史（徳島大学））

■第1回講演会

日時：令和5年6月10日（土）16:10-17:30

会場：広島工業大学広島校舎 301 号室（〒730-0811 広島市中区中島町 5-7）

主催（共催）

- ・日本経営システム学会 中国四国支部
- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会 「SCM&サービス工学」支部研究部会
- ・日本経営システム学会 イノベーション指向データ分析研究会

講師：酒井 達弘 氏（広島工業大学情報学部情報工学科 助教）

題目：「ソーシャルメディアに対する時空間データマイニング」

■第2回講演会

日時：令和6年1月6日（土）15:00-16:15

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

主催（共催）：

- ・日本経営システム学会 中国四国支部
- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会 「SCM&サービス工学」支部研究部会

・日本経営システム学会 イノベーション指向データ分析研究会

講師：木下 雄貴 氏（近畿大学 工学部 情報学科 助教）

題目：サステナブル生産のための環境負荷とコストの多目的評価

概要：

SDGs やカーボンニュートラル実現のために、環境に配慮したサステナブル生産が求められている。製品設計で決まる各部品の材料は、製品の機能、重量やコストのみならず、温室効果ガス排出量といった環境負荷にまで影響を与える。本発表では、製品ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量、リサイクル率や調達・組立・分解コストの関係を整理するとともに、多目的評価によるサプライチェーン設計や分解生産システム設計について紹介する。

「OR と数学」研究部会

（主査：中山慎一（徳島大学）、幹事：宇野剛史（徳島大学）、大橋守（徳島大学）、竹内博（四国大学））

■第1回講演会

日時：令和5年12月18日（月）15:30 - 17:20

会場：

主催（共催）：

- ・徳島大学談話会
- ・日本 OR 学会中国・四国支部「OR と数学」研究部会

講演プログラム

1) 15:30-16:20 鶴見 裕之 氏（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）

題目：全空間における定常ナビエ・ストークス方程式の適切性・非適切性問題

概要：本問題は時間変化を伴わない流体の運動を記述する定常ナビエ・ストークス方程式の、解（流体の速度場）の一意存在性ならびに与えられた外力に対する連続的依存性を全空間において考察するものである。本講演では2次元・3次元の場合に分けて、これまでなされてきた研究内容を講演者による結果を交えて紹介する。特に2次元の場合を重点的に取り扱い、3次元の場合よりも考察が困難であることを述べた上で、回転流を軸とした線形化と方程式のフーリエ級数表示を用いた解析が有効であることを説明する。なお2次元の場合に関する講演内容は前川泰則氏（京都大学）との共同研究に基づく。

2) 16:30-17:20 國川 慶太 氏（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）

題目 : Morse index and first Betti number for self-shrinkers in higher codimension

概要 : 本講演では余次元の高い self-shrinker の Morse index を第 1 ベッチ数により下から評価できることを紹介する。ただし、我々の結果を適用できる self-shrinker は第 2 基本形式が強い制約を満たすものだけである。実は、超曲面の場合には、そのような制約は不要で、しかも遥かによい index 評価が得られるということが既に知られている。この意味で、我々の結果には大いに改良の余地があるが、その辺の事情も含めて現在進行中の話や今後の展開について紹介したい。なお、本講演の内容は櫻井陽平氏（埼玉大学）との共同研究に基づくものである。

協賛講演会

■ 2024 年度 PM 学会中国支部特別講演

日時 : 令和 6 年 2 月 2 日(金) 15:00 - 17:00

会場 : 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま 504 講義室

(〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3 広島県民文化センター5 階)

世話役 : 田村慶信（山口大学）

支部長表彰（5 名）

氏名・所属 : 藤田航平（山口大学大学院 創成科学研究科）

修士論文題目 : 三角波を用いたジャンプ拡散過程開発工数予測モデルに基づくエッジサーバの最適化

推薦者 : 田村慶信（山口大学大学院創成科学研究科 教授）

氏名・所属 : 塩見康紘（鳥取大学工学部 社会システム土木系学科）

卒業論文題目 : 都市施設等の周辺環境が空き家発生に与える影響の分析

推薦者 :

- 鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座, 教 授, 伊藤 弘道（正会員）
- 鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座, 教 授, 福山 敬（正会員）
- 鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座, 教 授, 谷本 圭志（正会員）
- 鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座, 准教授, 小柳 淳二（正会員）
- 鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座, 准教授, 南野 友香（正会員）

氏名・所属：中畑裕大（近畿大学工学部情報学科）

卒業論文題目：次世代コミュニケーションツールを用いた教育効果に関する研究～大学生の批判的思考力向上を目的とした文章生成系 AI の活用方法検討と効果測定～

推薦者：片岡隆之（近畿大学工学部情報学科 教授）

氏名・所属：邱南翔（広島大学先進理工系科学研究科情報科学プログラム）

修士論文題目：A Study On Infinite-failure Software Reliability Models Based on Non-Homogeneous Markov Processes

推薦者：岡村寛之（広島大学 教授）

氏名・所属：網中優太（徳島大学理工学部理工学科応用数理コース）

卒業論文題目：容量制約付き配送計画問題に対する感度分析の適用

推薦者：宇野剛史（徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授）

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部会計

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
利息	0	0	
収入合計①	250,000	250,000	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	25,000	24,999	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	44,548	海生氏, 永原氏, 田村氏, 西氏
部会費	75,000	86,262	25,000×3部会
表彰関係費	10,000	10,469	賞状&額縁4639, ゆうパック袋500, ゆうパック5330
協賛会費	0	10,000	PM学会中国支部特別講演
事務費	5,000	0	
通信運搬費	5,000	0	
事業費	70,000	22,274	支部シンポジウム(井上氏, 真塩氏)
本部返金	0	51,448	
支出合計②	250,000	250,000	
当期運営残高①-②	0	0	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部研究部会「プロジェクトマネジメントと確率モデル」会計報告

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	25,000	25,000	
収入合計	25,000	25,000	
(支出の部)			
講演会費	25,000	11,137	中村氏(11/17) 11,137円, 源泉徴収1,137円
		11,137	伊藤氏(12/2) 11,137円, 源泉徴収1,137円
協賛会費	0	5,000	PM学会中国支部セミナー(6/9)
		10,000	PM学会中国支部セミナー(12/1)
通信運搬費	0	440	振込手数料(6/9, 12/1)
支出合計	25,000	37,714	
残高	0	-12,714	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部研究部会「SCM&サービス工学」会計報告

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	25,000	25,000	
収入合計	25,000	25,000	
(支出の部)			
講演会費	25,000	11,137	酒井氏(6/10) 11,137円, 源泉徴収1,137円
		11,137	木下氏(1/6) 11,137円, 源泉徴収1,137円
会議費		4,000	広島工業大学広島校舎(6/10)
支出合計	25,000	26,274	
残高	0	-1,274	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部研究部会「ORと数学」会計報告

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	25,000	25,000	
収入合計	25,000	25,000	
(支出の部)			
講演会費	25,000	11,137 11,137	鶴見氏(12/18) 11,137円, 源泉徴収1,137円 國川氏(12/18) 11,137円, 源泉徴収1,137円
支出合計	25,000	22,274	
残高	0	2,726	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部会計

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
利息	0	0	
収入合計①	250,000	250,000	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	25,000	24,999	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	44,548	海生氏, 永原氏, 田村氏, 西氏
部会費	75,000	86,262	25,000×3部会
表彰関係費	10,000	10,469	賞状&額縁4639, ゆうバック袋500, ゆうバック5330
協賛会費	0	10,000	
事務費	5,000	0	
通信運搬費	5,000	0	
事業費	70,000	22,274	支部シンポジウム(井上氏, 真塩氏)
本部返金	0	0	
支出合計②	250,000	198,552	
当期運営残高①-②	0	51,448	

会計帳簿および領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしました。

令和 6 年 2 月 27 日

署名

西崎 一郎



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和5年度支部会計

自 令和5年3月1日
至 令和6年2月29日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
利息	0	0	
収入合計①	250,000	250,000	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	25,000	24,999	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	44,548	海生氏, 永原氏, 田村氏, 西氏
部会費	75,000	86,262	25,000×3部会
表彰関係費	10,000	10,469	賞状&額縁4639, ゆうパック袋500, ゆうパック5330
協賛会費	0	10,000	
事務費	5,000	0	
通信運搬費	5,000	0	
事業費	70,000	22,274	支部シンポジウム(井上氏, 真塩氏)
本部返金	0	0	
支出合計②	250,000	198,552	
当期運営残高①-②	0	51,448	

会計帳簿および領収書を監査した結果, 適切に処理されていることを確認いたしました。

令和 6 年 2 月 26 日

署名 福山 敦



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 令和6年度支部役員

(五十音順, 敬称略)

役職	氏名	所属	新・再・留任	備考
支部長 (1名)	岡村 寛之	広島大学	(新)	
副支部長 (1名)	高濱 節子	広島修道大学	(留)	
運営委員 (14名)	梶川 祐朗	(株) ひらめきデザイン	(留)	
	片岡 隆之	近畿大学	(新)	
	加藤 浩介	広島工業大学	(留)	
	岸 康人	高知学園大学	(新)	
	小柳 淳二	周南公立大学	(新)	
	島田 文彦	広島国際大学	(再)	
	玉置 哲也	香川大学	(留)	
	田村 慶信	山口大学	(留)	研究普及委員
	中山 慎一	徳島大学	(再)	
	西 竜志	岡山大学	(留)	
	林田 智弘	広島大学	(新)	
	広谷 大助	県立広島大学	(留)	
	水谷 昌義	安田女子大学	(再)	
	南野 友香	鳥取大学	(留)	
監事 (2名)	土肥 正	広島大学	(新)	
	福山 敬	鳥取大学	(再)	
幹事 (5名)	宇野 剛史	徳島大学	(留)	研究普及委員
	木下 雄貴	近畿大学	(新)	
	齋藤 靖洋	海上保安大学校	(再)	
	鄭 俊俊	広島大学	(新)	事務局
	松井 猛	県立広島大学	(新)	
顧問 (4名)	大橋 守	徳島大学		
	海生 直人	広島修道大学		
	谷崎 隆士	近畿大学		
	山田 茂	鳥取大学		

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

中国・四国支部 令和6年度活動計画（案）

- | | |
|----------|-----|
| 1. 総会 | 1 回 |
| 2. 運営委員会 | 2 回 |
| 3. 支部懇親会 | 2 回 |
| 4. 支部講演会 | 5 回 |
5. 中国・四国地区 SSOR R6 後期：開催場所 広島市（実行委員長 林田智弘（広島大学））

【参考：直近 3 回分開催データ】（以後、原則山陽・山陰・四国地区で持ち回り）

山陽地区担当 R2／11／21-22：実行委員長 谷崎隆士（近畿大学）

山陰地区担当 R3／11／13-14：実行委員長 伊藤弘道（鳥取大学）

四国地区担当 R4／11／05-06：実行委員長 玉置哲也（香川大学）

6. 支部主催シンポジウム R6 後期：オンライン開催（実行委員長 宇野剛史（徳島大学））

【参考：直近 3 回分開催データ】（以後、原則山陽・山陰・四国地区で持ち回り）

四国地区担当 R3／12／18：実行委員長 中山慎一（徳島大学）

山陽地区担当 R4／12／10：実行委員長 加藤浩介（広島工業大学）

山陰地区担当 R5／10／28：実行委員長 伊藤弘道（鳥取大学）

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 7. 支部研究部会 | 3 部会 |
| 8. 支部長表彰 | 若干名（直近 3 年分は 3・6・5 名） |

2024. 1. 17

近畿大学

工学部

谷崎

1. 名称：SCM&サービス工学研究部会

2. 部会組織

主査： 近畿大学工学部情報学科 教授 谷崎隆士

幹事： 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 宇野剛史

3. 設立趣旨

従来の「ものづくり分野」「サプライチェーン分野」に加えて、「サービス分野」への生産性向上や振興が期待されている。

本研究部会は、サプライチェーンマネジメント、サービス工学における最新の研究を進めていく。理論研究発表、応用研究発表、事例発表などを含めて、ORを適用していくに際しての課題解決や実践的な方法論を討議し、行政、企業のニーズにこたえていくという姿勢で、本研究会が理論と実用の橋渡しの役割を果たしたいと思う。 そのためにも、理論家のみならず、企業関係者やコンサルなどの実務家の参加を期待している。

以上の趣旨で、平成15年度からつづいている研究会を時代のニーズにあわせて変化させつつも、さらに継続・深化していきたいと考えている。オペレーションズ・リサーチ学会の他支部、他学会と連携を深め会員に最新の話題提供ができることを目指している。

4. 対象分野

【応用分野】

- ・ サプライチェーンマネジメント、流通システムの設計・運営（ロジスティックス、マーケティングなど）
- ・ サービス工学
- ・ 生産システムの設計・運用・管理（生産方式、スケジューリング、シミュレーション、MRP, ERP, JIT, APS, スケジューリング、シミュレーションなど）
- ・ 公共関連（輸送・交通、医療福祉介護システム、資源環境リサイクルシステム、その他）
- ・ 経営関連（経営戦略、企画、設計、金融財務、組織人事教育、その他）
- ・ 情報技術（情報化企画、ビジネスプロセスモデリング、e-ビジネス、セキュリティ、インターネットアプリケーションなど）
- ・ その他 OR 関連

【理論分野】

- ・数理計画・最適化技術
- ・シミュレーション・待ち行列理論
- ・確率・統計
- ・意思決定支援技術（多目的計画、AHP、ゲーム理論、その他）
- ・ソフトコンピューティング（ニューロ、ファジィ推論、遺伝的アルゴリズム、進化的計算など）
- ・人工知能（機械学習、強化学習等）
- ・その他 OR 関連

5. 研究部会開催計画

- ・年2回以上の開催を予定している。1回当たり講師2名の研究・講演を行う。
- ・講演謝金として、10千円/人×4人＝40千円を申請致します。
- ・1名は学界から、もう1名は産業界から招聘することを原則にする。
学界、産業界、行政などから参加者を募ることとしたい。
- ・OR学会本部、他支部や他の学会との主催、共催を図っていく。

6. 運営方法

- ・案内は、事前にOR学会会員、今までの参加者へメールリングリスト（本部および支部）で流す。
- ・関連の学会の支援を依頼し、案内を流してもらう。
- ・研究企画については、幹事が主に担うが、広く参加者からも逐次アイデアを受け、さらに充実したものとしていく。

以上

研究部会趣意書

名称

「OR と数学」研究部会

部会組織（主査，幹事等）

主査：中山慎一（徳島大学大学院 准教授）

幹事：宇野剛史（徳島大学大学院 准教授）

大橋 守（徳島大学大学院 名誉教授）

竹内 博（四国大学 教授）

設立趣意

OR では、数学を道具として用い、広範な現実の問題を取り組み、
色々な分野における意思決定を行っている。その道具として
利用してる数学の世界では、まったく異なった分野で現れる事象のもとに
横たわっている共通の法則性を発見することがある。逆に、
OR の手法として開発された数学的技法が、単なる技法というだけでなく、
新しい数学や数理科学の萌芽となる場合も存在する。
そこで、本研究部会では、OR、数学、数理科学の研究者などを迎え、
OR と数学の最新研究を知ることにより、相互における新たな世界構築の
可能性について議論する。

対象分野

確率・統計，解析学，幾何学，代数学，最適化理論，グラフ・ネットワーク，
スケジューリング，アルゴリズム，計量理論，経済，意思決定論

研究部会開催計画

年 1 回の開催を予定している。

運営方法

開催の案内は主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員へ告知する。
予算に関しては、講演謝金 2 件（10,000 円 x 2）を予定している。

1. 名称：プロジェクトマネジメントと確率モデル

2. 部会組織

主査：	山口大学	大学院創成科学研究科	教授	田村慶信
幹事：	山口大学	大学院創成科学研究科	助教	周蕾
	鳥取大学	大学院工学研究科	准教授	小柳淳二
	鳥取大学	大学院工学研究科	准教授	南野友香
	鳥取大学		名誉教授	山田茂

3. 設立趣旨

プロジェクトマネジメントは、現代におけるモノづくりの管理手法として産業界で幅広く活用されている。近年のプロジェクトマネジメントの特徴は、リスクを定量化するリスクマネジメントが重視される点である。不確定要素をどこまで正確に予測し有効な対策を講じるかがプロジェクト成功の鍵であり、そのためのツールである FMEA やリスクマトリクスなどの手法は既に産業界に深く浸透している。こうしたツールを用いることと並行して、過去に得られたデータを有効にリスクマネジメントに活用するために確率モデルが用いられる。

リスクの不確実さを表現するために、確率モデルは有用なツールとなる。まだ統計解析ができるほどのデータが得られていない計画段階であっても確率モデルを用いた検討は可能であるため、プロジェクトの初期からリスクマネジメントに活用することができる。しかし確率モデルを扱うには応用確率論を理解しなければならず、実務家にとって大きな障害になっている。そこで、確率モデルを扱う専門家とプロジェクトマネジメントを担当する実務者の双方が協力して同じテーマに取り組むことが求められる。

本研究部会では、確率モデルの理論研究者とプロジェクトマネジメント実務者の双方が同じテーマを議論する場を設け、忌憚ない意見を交換することで、リスクマネジメントあるいはプロジェクトマネジメントに確率モデルを有効に適用するうえでの新しい可能性を探る。

4. 対象分野

- (1) 理論分野：応用確率論，（ソフトウェア・ハードウェア）信頼性工学
- (2) 実務分野：プロジェクトマネジメント，ソフトウェア工学，最適化理論等

5. 研究部会開催計画

年2回以上の開催を予定している。

6. 運営方法

- ・開催の案内は、主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員に告知する。
- ・予算に関しては、講演謝金4件（10,000円×4）を予定している。
- ・研究部会企画については、主査・幹事が主に担うが、広く支部会員からも逐次アイデアを受け、さらに充実したものとしてゆく。

以上

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和6年度予算

資料 2-3 (1/1)

	予算額	備考
(収入の部)		
支部運営費①	250,000	R05実績
支部事業費②	100,000	SSORを申請
収入合計	350,000	
(支出の部)		
支部運営費		
会議費	25,000	ZOOMプロ年間ライセンス
講演会費	60,000	約12,000x5 (謝金・旅費補助)
部会費	90,000	30,000x3部会
表彰関係費	10,000	
事務費	5,000	
通信運搬費	5,000	
事業費	55,000	支部シンポジウム 35,000, SSOR 20,000
小計③	250,000	
支部事業費 (シンポジウム)	0	
支部事業費 (SSOR)	100,000	
小計④	100,000	
支出合計③+④	350,000	
支部運営費残高①－③＝⑤	0	
支部事業費残高②－④＝⑥	0	
当期運営残高⑤＋⑥	0	